

「団地再編住みよいまちへ2012」 展覧会・講演会の開催

KS
DP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

MARCH 2013
VOL. 110



図 1. 大阪市立住まい情報センター（大阪会場）での展覧会の様子



図 2. 江川直樹による講演（大阪会場）



図 3. 増永理彦による講演（吹田会場）



図 3. 星田逸郎による講演（八幡会場）

「団地再編住みよいまちへ2012」展覧会と講演会

本プロジェクトでは2012年11月から2013年3月にかけて「団地再編住みよいまちへ2012 海外等の団地再生先進事例の動向とわが国におけるストック活用型団地再編への展望—関西大学 戦略的研究基盤・団地再編プロジェクトからの提案—」と題した展覧会（巡回展）および関連講演会を開催した。展覧会では、これまでの研究成果（海外等の団地再生先進事例の紹介および模型による空間比較）を報告するとともに、京都府八幡市のUR男山団地を対象として、ストックを活かしながら団地の構造（仕組み）を再編し、多様で自立的な“まち”へ再生する再編技

術提案の一端を紹介した。会期中はプロジェクトに参加している研究メンバー、学生メンバーが常駐し、来場者に対して展示物の説明にあたった。多くの方に興味を持っていただき、4会場で合計1,224人（講演会も含む）の方に来場していただいた。来場者層をみると、団地に関係する仕事についておられる方から団地に興味をお持ちの学生、地元住民の方々など、幅広い人に来ていただき、団地再編に対する関心の高さが窺えた。

また、展覧会と併せて、関西3会場で研究メンバーおよび団地に携わってきた有識者を招いての関連講演会を実施した。

1. 展示会の概要

ストックを生かした団地再編の技術開発研究は、現実にお住まいの団地住民や地域住民の生活に直接関わる課題であり、団地が立地する自治体にとってもまちづくり上の大きな課題である。本プロジェクトの研究の成果は、建築や不動産の専門家だけでなく、広く住民や市民、行政職員や市長、議員、次代を担う学生の理解を得ることが重要で、研究活動や成果の一般への公表が特に重要である。

そこで、これまでに行った海外等の団地再生先進事例の動向調査、再編事例の前後の同一スケールでの模型による空間比較、リーフレットのパネル紹介と併せ、男山団地を舞台にした、住宅および環境ストックの活用を図りつつ、住民が守り育て自立的に更新していけるような“まち”に再編する考え方、「提案<ver.1 (2012)>」を図面と模型で示す展示会を開催した。展示会は、巡回展とし、2012年11月に大阪市住まい情報センター、12月に吹田市千里ニュータウンプラザと八幡市文化センター、2013年3月に新宿パークタワーで開催した(表1)。

巡回展では、表2の展示物を展示した。一方、展示だけではなく、団地住民や行政からの相談会を実施し、プロジェクトの告知とともに、団地再生の現状に関するいくつかの相談を受け、今後の研究活動の展開の可能性が広がった。また、海外調査に参加した大学院生による、再編事例の紹介講義を連日開催した。

また巡回展に併せ、提案の考え方(建替事例における)居住者参加の事例と、住戸や住棟の改修実験・実施事例、男山団地の駐車場や緑地における微気候改修の提案などの関連講演会も実施した。

2. 関連講演会の概要

関連講演会は、関西での3会場(大阪、吹田、八幡)で開催した(表3)。

表1. 展示会の開催日程と来場者数

会場	会期	来場者数	
		展示会	講演会
大阪市住まい情報センター(大阪市北区)	2012年11月8日～12日	721人	83人
千里ニュータウンプラザ(大阪府吹田市南千里)	2012年12月5日～9日	123人	28人
八幡市文化センター(京都府八幡市)	2012年12月14日～18日	116人	75人
新宿パークタワー(東京都新宿区)	2013年3月25日～27日	78人	—

講演会では、本プロジェクト代表の江川直樹(関西大学教授)から研究成果の概要とストック活用型団地再編への展望を各会場で紹介した(図2)。それに併せて、研究メンバーの増永理彦(神戸松蔭女子学院大学教授)から団地建替え事例における居住者参加の事例紹介(図3)、星田逸郎(星田逸郎空間都市研究所)から団地住戸のリノベーションの実践とその結果についての紹介(図4)、井上洋司(背景計画研究所)から男山団地の屋外環境への提案がなされた。そして、ゲスト講演として山口岩次郎氏(千里ニュータウン居住者)からは団地建替えにおける居住者の参加/非参加の事例紹介、笹原武志氏(多摩平の森自治会)からは「多摩平の森」建替えにおける住民・事

表2. 展示物一覧

No.	展示物	媒体
1	プロジェクト紹介パネル	A1バ 裨×2枚
2	本プロジェクトの活動紹介映像	映像2箇所
3	ベルマミーア1/2000模型(従前、従後)	A1サイズ×2枚、2セット
4	ベルマミーア1/1000模型(従前、従後)	A1サイズ×4枚、2セット
5	ライネフェルデ1/2000模型(従前、従後)	A1サイズ×1枚、2セット
6	ヒューム1/2000模型(従前、従後)	A1サイズ×1枚、2セット
7	ジャン・ボ1/2000模型(計画、現状)	A1サイズ×1枚、2セット
8	百万庄1/2000模型(計画、現状)	A1サイズ×1枚、2セット
9	リーフレット: ヨーロッパ団地再生関連	B1バ 裨×18枚
10	リーフレット: アジア団地関連	B1バ 裨×7枚
11	リーフレット: レクチャー関連	B1バ 裨×9枚
12	調査団地プロット世界地図	A0バ 裨
13	団地再編叢書: 閲覧	5冊×2セット
14	研究メンバープロフィールシート	B1バ 裨×6枚
15	男山団地への再編提案骨子	A1バ 裨×10枚
16	男山団地への再編提案模型(現状、提案)	A1サイズ×2枚、2セット
17	男山団地への提案: A地区模型(現状、提案)	A1サイズ×2セット
18	男山団地への提案: A地区パネル	B1サイズ×2枚
19	男山団地への提案: B地区模型(現状、提案)	A1サイズ×2枚、2セット
20	男山団地への提案: B地区パネル	B1サイズ×3枚
21	男山団地への提案: C地区模型(現状、提案)	A1サイズ×2セット
22	男山団地への提案: C地区パネル	B1サイズ×2枚
23	調査研究紹介パネル	A1バ 裨×6枚

団地再編・住みよいまちへ2012 海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への提案

団地再編 住みよいまちへ2012
海外等の団地再生先進事例の動向とわが国におけるストック活用型団地再編への提案
—関西大学 戦略基盤・団地再生プロジェクトからの提案—

開催日時: 2012年11月8日(木)～12日(月)
2012年12月5日(水)～9日(日)
2012年12月14日(金)～18日(火)

会場: 大阪市住まい情報センター(11/8～12)
千里ニュータウンプラザ(12/5～9)
八幡市文化センター(12/14～18)

入場料: 無料

講演会
2012年12月8日(木) 14:00～17:00
2012年12月9日(金) 14:00～17:00
2012年12月14日(金) 14:00～17:00
2012年12月15日(土) 14:00～17:00
2012年12月16日(日) 14:00～17:00

展示物
プロジェクト紹介パネル、本プロジェクトの活動紹介映像、ベルマミーア1/2000模型(従前、従後)、ベルマミーア1/1000模型(従前、従後)、ライネフェルデ1/2000模型(従前、従後)、ヒューム1/2000模型(従前、従後)、ジャン・ボ1/2000模型(計画、現状)、百万庄1/2000模型(計画、現状)、リーフレット: ヨーロッパ団地再生関連、リーフレット: アジア団地関連、リーフレット: レクチャー関連、調査団地プロット世界地図、団地再編叢書: 閲覧、研究メンバープロフィールシート、男山団地への再編提案骨子、男山団地への再編提案模型(現状、提案)、男山団地への提案: A地区模型(現状、提案)、男山団地への提案: A地区パネル、男山団地への提案: B地区模型(現状、提案)、男山団地への提案: B地区パネル、男山団地への提案: C地区模型(現状、提案)、男山団地への提案: C地区パネル、調査研究紹介パネル

図5. 展示会と関連講演会の告知チラシ(左: 表面 / 右: 裏面)

表 3. 講演会の講演者と題目

月日	講演者	講演題目
11月17日 (大阪会場)	江川直樹	海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)
	増永理彦	UR団地再生における居住者参加
12月8日 (吹田会場)	江川直樹	海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)
	増永理彦 山口岩次郎	団地の再生と居住者参加
12月15日 (八幡会場)	江川直樹	海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)
	増永理彦 笹原武志	「多摩平の森」における三者の協働について
12月16日 (八幡会場)	星田逸郎	団地住戸のリノベーションを経験して(親月橋団地再生計画、向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験、富田第二住宅等)
	井上洋司	男山団地の緑道植栽及び路上駐車風景の微気候調整能力再生に向けて

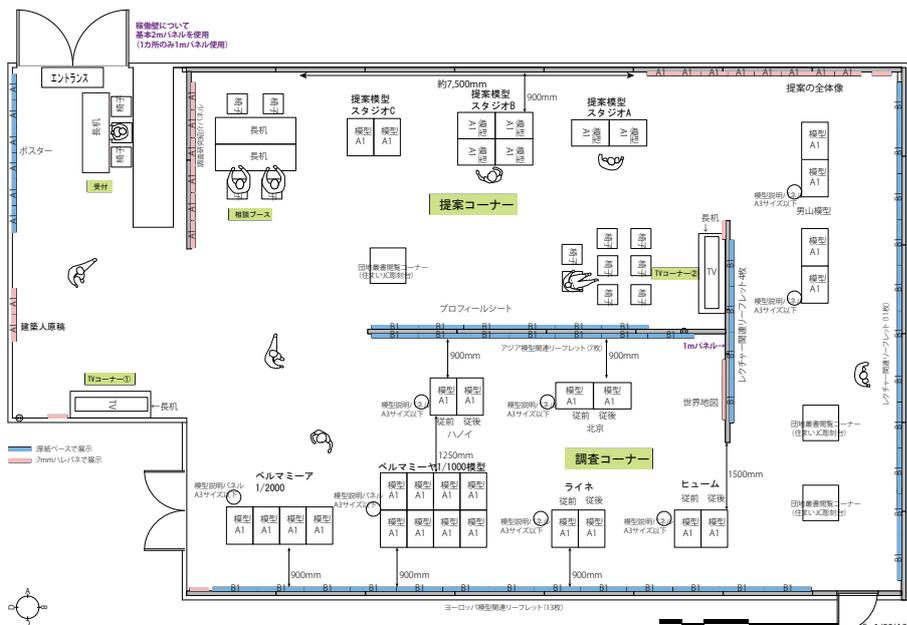


図 6. 大阪市立住まい情報センターでの展示レイアウト



図 7. 会場の様子 (大阪会場)



図 9. 会場の様子 (吹田会場)



図 8. 大学院生による再編事例の紹介



図 10. 会場の様子 (吹田会場)

3. 展覧会の告知とメディアの取材

展覧会と講演会に先立ち、告知チラシ(図5)を作成し、行政・公共施設や事業主体、大学・教育研究機関等の関係機関に合計16,000枚配布した。会場には、通算1,224名もの方の来訪参加が得られ、産経新聞、京都新聞、京都府地元ケーブルテレビなどのメディアにも取り上げられ、広報された。

4. 展覧会の様子

4-1. 大阪市立住まい情報センター(大阪会場)

大阪市立住まい情報センター(以下、大阪会場)は、巡回展の会場の中で最も広く、全ての展示物を展示している(図6)。大阪会場は、立地場所、交通アクセスに恵まれ、何よりも市立博物館内ということもあり、専門家のみならず一般市民の来

場が多く見られた(図1、7)。また映像を用いた大学院生による再編事例の紹介にも、多くの方が参加され、興味深く国内外の団地再編事例に見入っていた(図8)。

4-2. 吹田市千里ニュータウンプラザ(吹田会場)

吹田市千里ニュータウンプラザ(以下、吹田会場)は、日本最初のニュータウンである千里ニュータウンに位置している。千里ニュータウンには公的住宅団地が多く存在する事から、団地に対する一般市民の関心も高く、多くの一般市民の方が来場された(図9、10)。

4-3. 八幡市文化センター(八幡会場)

八幡市文化センター(以下、八幡



図 11. 会場の様子 (八幡会場)



図 12. 会場の様子 (八幡会場)

会場)は、団地再編の提案の対象とした男山団地が立地する八幡市を会場としている。八幡市の人口の



図 13. 会場の様子 (東京会場)



図 14. 会場の様子 (東京会場)

約 20% を占める男山団地に対する関心も高く、男山団地居住者から行政関係者まで多くの方が来場された(図 11、12)。

4-4. 新宿パークタワー (東京会場)

新宿パークタワー (以下、東京会場) は、首都圏での展覧会開催の要望を受け開催した。平日のみの 3 日間の開催であったが、専門家をはじめとする関係者から、新宿パークタワーを訪れた一般市民まで多くの方が来場された (図 13、14)。

5. 展覧会の準備と運営

本展覧会は、展示物の作成から展示計画の作成、搬入出、展示作業などを全て本プロジェクトの特任研究



図 15. 展覧会の搬入・準備の様子

員と P D、R A、大学院生総勢 25 名によって実施した。また展覧会会期中の受付や会場案内係も、大学院生を中心として実施した。

6. 展覧会の効果と今後の展開

それぞれの展覧会場で来場者アンケートを行った。展示内容や映像による事例紹介について、新鮮な驚きと感銘をうけたという記述があり、今後の研究成果を期待する声を多くいただいた。一方、展示内容が専門的すぎる、見づらいというご意見もいただいた。本研究プロジェクトでは、これらのご意見を受け止め今後の研究活動に繋げていきたい。展覧会以降、住民・市民、行政、事業主体等との対話を基に団地再編を進める事を目指し、「だんだんワークショップ/カフェ」と称した居住者との対話の機会を設けた。今後は固定した場所で定常化した「だんだんテラス」開設を予定している。以下にアンケートに記されたご意見の一部を紹介する。

○興味を持った展示、団地再編へのご意見等

「実践された海外事例が展示されており、研究の熱い取り組みが良く伝わってきた」、「スライドによる発表がわかりやすい説明で臨場感がありました。生の説明があると理解も深まります」、「現在の人口構成にあわなくなった団地を再編することにより、よりよいまちに生まれ変わることに期待します」、「耐震性をとらえてリニューアルしようとしているが、RC 造建物は少しの補強であと何十年も維持できる。可能性がある資源を生かす意味でも改造寿命が

期待される。今後の研究が楽しみです」、「法規的な検証、自治会、役所の協議を行い実現的な視点から考えられているので有意義な展示だと思う」、「団地も老朽化か高齢者が多いなど若い人たちが利用出来る様に考えているというのはいいと思います」、「通常、団地を建替えると住棟が駐車場だけになるケースが多く生活者のための屋外空間 (広場) 等の居場所が無くなってきてしまうケースが多いと思います。団地再編においては、生活者のための居場所を残しつつ、団地と周囲の街とお繋ぐような方向性で引き続き考えていただきたいと考えます」。

○本展覧会や本プロジェクトへの期待等

「研究を実践するのは今後の課題」、「団地再編というくくりは非常に大きいテーマであり、その中でパートパートでの問題点を掘り下げて見解を述べてほしい」、「団地住民の方々も交流出来る場を設けなければなりませんと思います」、「団地再編は "プロセス" や "組織体制" も重要だと思います。そういった点までご提案いただきたいです」、「大いに期待しています。年 2 回くらいで開催されるとありがたい」、「男山団地について、今回提案された方向性の中で基本に実現する際に問題になることを社会的情報としてオープン化していただくこと。また、団地にお住まいの方の生の声も踏まえて好ましい団地再編のあり方を深めていくこと」。

謝辞：展覧会・講演会開催にあたり、関係機関の多大なご協力を得ました。改めて御礼申し上げます。

関連リーフレット：096 097 101 102 112 113

『「団地再編住みよいまちへ 2012」展覧会・講演会の開催』

執筆：倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)

発行：2013 年 3 月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編 (再生・更新) 手法に関する技術開発研究 (平成 23 年度～平成 27 年度)」によって作成された。